

境界図作成仕様書

1 全般事項

- (1) 用紙の大きさは、日本工業規格 (J I S) A列1番、2番または3番の大きさとする。
- (2) 紙質は、上質紙とする。
- (3) 余白は、外周に額縁状に幅3センチメートル以上の余白をとる。
- (4) 筆記方法は、黒一色で鮮明に記入し、記載手段は、長期保存に耐えるとともに改ざん不可能なものとし、活字部分が剥がれてしまうものや消えてしまうものは不可とする。
- (5) 図面が二葉以上にわたるときは、P点 (境界点) またはK点 (区域点) で接合させること。このとき、座標番号は連番とし、図面の右上に接図を記入する。
図面が二葉にわたるときの表示は右上に次の枠を配置する。

枚数	その内

2 表題部に関すること。

- (1) この欄は、作成者 (測量士または土地家屋調査士) が記入する。
- (2) 合意した土地所在・地番が複数あるときは、地番の後に「ほか」を記載する。
- (3) 境界図が複数の「丁目」、「字」を含むときは、それぞれの土地所在・地番を記載する。

3 公共用地境界図および土地境界図の実測図部分に関すること。

(1) 境界点 (P点) および境界線について

境界点間の確定辺長および幅員について、寸法を算用数字にて記入すること。数値は、メートル単位とし、座標値を展開した数値に1 / 100未満を切り捨てて標示すること。

P点は一重丸で統一し、確定辺長には小数点位置に「m」の文字を記入する。

(2) 引照点 (S点) について

S点は、点の記としてふさわしい構造物より取り、原形を表示する。計算点、刻み等のときは、一重丸とする。なお、境界点の外側の引照点は2点以上とする。

(3) 詳細図について

ア 境界点および引照点が図面上で分かりにくい場合または書ききれない場合には、詳細図を記載すること。

イ 詳細図を記載する場合は、詳細図に確定辺長および幅員を記載すること。また、その縮尺を書き入れること。

(4) 地名および隣接土地地番の表示について

ア 合意の成立をもって境界は確定することから、該当する土地地番を図中に記入すること。したがって、図中の土地地番は全て境界確認書または合意欄と符合する。

イ 土地の地番は、算用数字を用いて、その所在にふさわしい位置に記入すること。

ウ 隣接土地が、公図上の表示地番と現地における実在地番とが食い違うような場合は、公図上の表示地番を記載し、その下に合意した実在地番を () にて表示すること。

エ 確定距離中に、確定しない国有地が接しているような場合には、「国有地 (水路敷地)」のように記載し、その所在を表示すること。

オ 図中に、丁目、字等異なる土地が併存するときは、それぞれの丁目、字等までの地名を図中の適所に記入すること。

(5) 方位は、北方向に矢印を付けることとし、図面の位置取りは、原則、北側を上向きにすること。

(6) 縮尺は、1 / 250を原則とすること。

4 道路区域図の実測図部分に関すること。

(1) 区域点 (K点) および区域線について

区域点間の区域辺長および幅員について、寸法を算用数字にて記入すること。数値は、メート

ル単位とし、座標値を展開した数値に1/100未満を切り捨てて標示すること。

K点は一重丸で統一し、区域辺長には小数点位置に「m」の文字を記入する。

(2) その他実測図部分に関することは、「3 公共用地境界図および土地境界図の実測図部分に関すること。」に準ずる。

5 土地境界図の合意欄について

(1) 枠内は、土地所有者本人が記名押印する。(申請者は実印。)ただし、立会場所・土地の地番は印字でも可とする。

(2) 記名は、黒色のボールペン等で記入する。ただし、官公庁・法人等はゴム印でも可とする。

(3) 合意年月日は、記名本人は記名押印した日付とする。

6 成果表に関すること。

(1) 座標値は、原則として世界測地系とし、メートル単位として1/1000まで記入する(1/1000未満を四捨五入)。

(2) P点は石標、金属プレート等の形状および原形を、S点は形状を記入する。

7 凡例に関すること。

境界点はP、引照点はS、機械点はTの記号を用いること。

8 作成者欄に関すること。

(1) 図面の作成者を明らかにするものであり、作成者(測量士または土地家屋調査士)が記名押印すること。また、作成者の住所、資格の種類および資格番号も記入する。測量業登録している場合、社名でも可とする。

(2) 測量年月日は、最終的に合意が成立した境界点を実測した日付である。したがって、最終の立会日以降である。

9 下図について

(1) 下図は、原図の写しを下図とし提出する。(土地境界図の場合は、合意欄の記名押印前の写し)

(2) 下図には、確定辺長および幅員の数値の下に、小数点以下第3位までの実数を()に記入する。なお、これは下図のみの取扱いである。

(3) 別に計算表等がある場合には提出する。

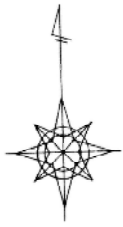
(4) 原図および複写図を提出するときは、チェックを受けた下図も同時に提出する。

公共用地境界図(例)別紙2-2(別紙参照)

土地境界図(例)別紙2-3(別紙参照)

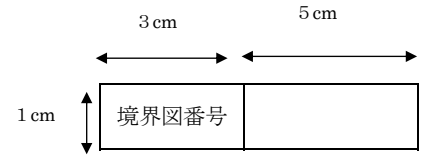
道路区域図(例)別紙2-4(別紙参照)

3 cm 以上

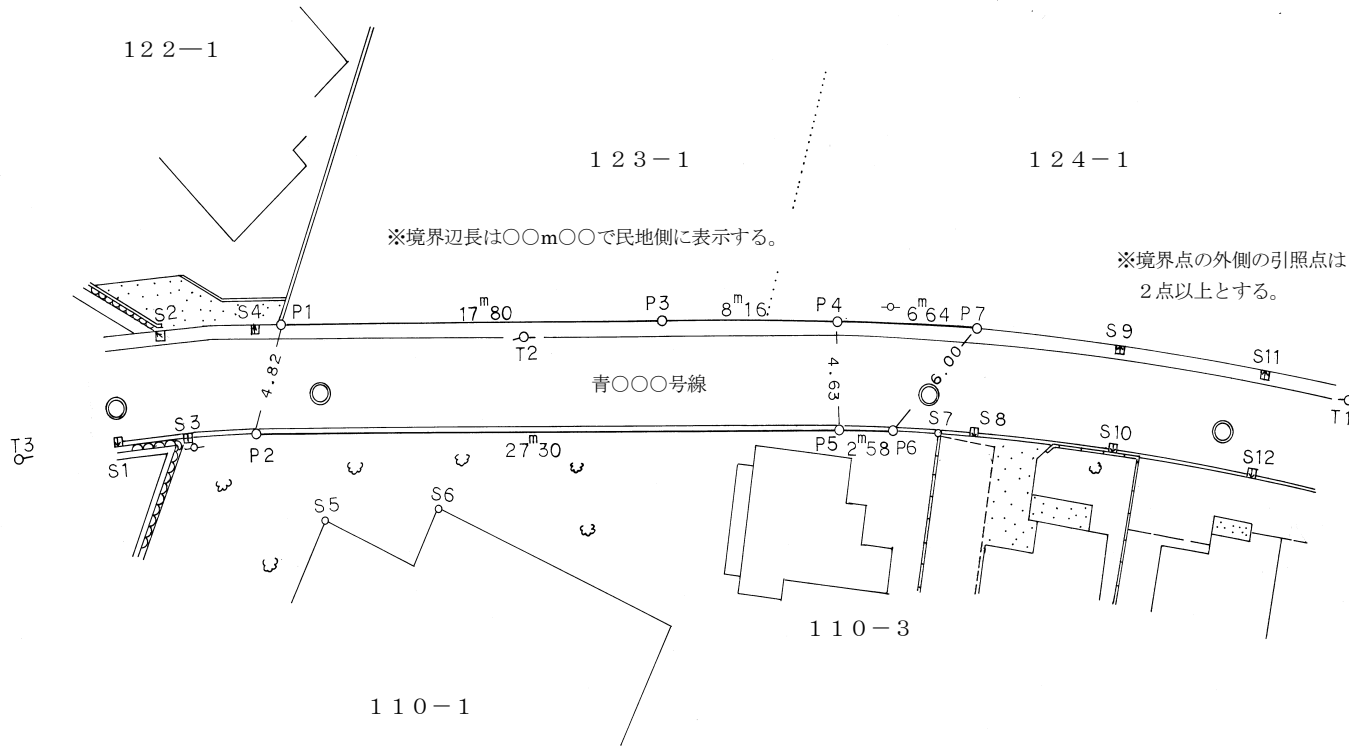


公 共 用 地 境 界 図		縮 尺
所 在 地 番	青梅市〇〇町六丁目123番1ほか	$\frac{1}{250}$

3 cm 以上



3 cm 以上



座標一覧表 (世界測地系)			
	X	Y	備 考
P 1	-21062.487	-48067.270	市プレート(アルミ) □
P 2	-21058.647	-48070.198	市石標 □
P 3	-21076.653	-48078.054	市プレート □
P 4	-21083.137	-48083.020	市石標 □
P 5	-21080.372	-48086.745	市石標 □
P 6	-21082.398	-48088.350	刻 み(市石標)
P 7	-21088.297	-48087.213	市石標 □
S 1	-21053.224	-48066.705	市石標
S 2	-21057.603	-48063.901	市石標
S 3	-21056.032	-48068.408	民石標
S 4	-21061.474	-48066.499	市石標
S 5	-21058.936	-48075.136	建物角
S 6	-21063.458	-48077.936	建物角
S 7	-21084.078	-48089.723	鉄 鋌(市石標)
S 8	-21085.375	-48090.817	市石標
S 9	-21093.295	-48091.858	市石標
S 10	-21090.154	-48095.263	市石標
S 11	-21098.045	-48096.935	市石標
S 12	-21094.701	-48100.121	市石標
T 1	-1100.000	-48100.000	鉄 鋌
T 2	21071.146	-48074.577	鉄 鋌
T 3	21049.177	-48064.363	鉄 鋌

※石標・プレートは原形を記入する。

矢印の場合は埋設向きに関係なく右上とする。

※ 形状・サイズについて
 境界点○ 1.5mm程度
 境界辺長 文字 2.5~3.0mm程度
 線の太さ 0.25~0.30mm程度

作 成 者	(土地家屋調査士) (測量士) ○ ○ ○ ○ 登録第○○○号
測量年月日	年 月 日

※測量年月日は立会日以降の日付とすること。

凡	○ P n	境 界 点
	S n	引 照 点
	○ T n	機 械 点
例	○○m○○ ○————○	境 界 辺 長

3 cm 以上

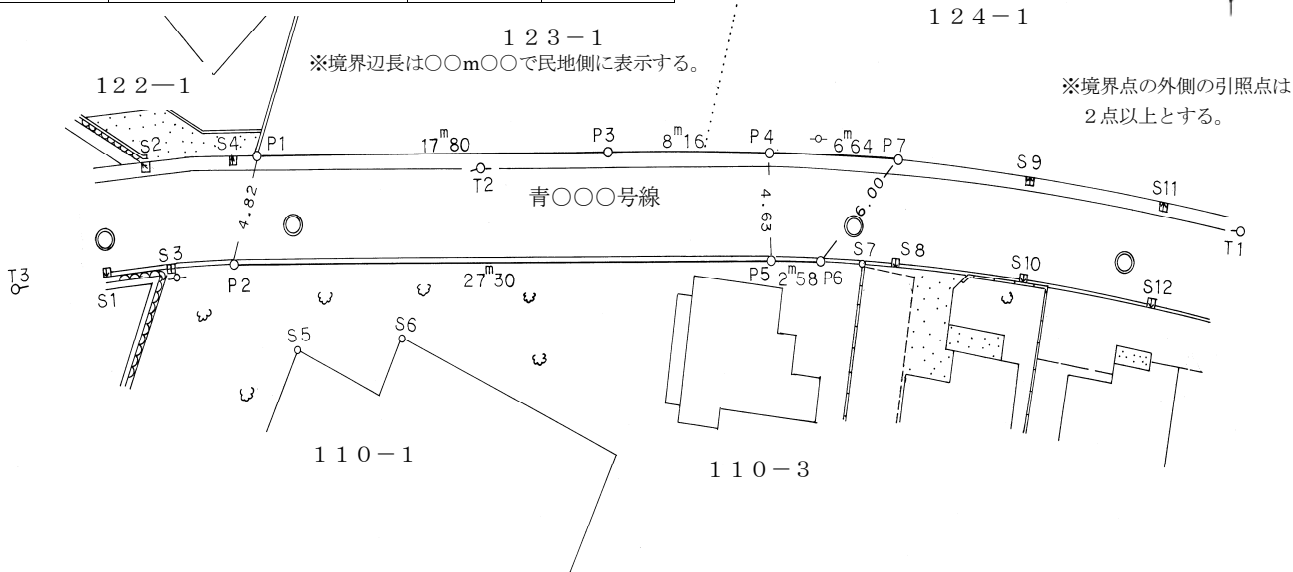
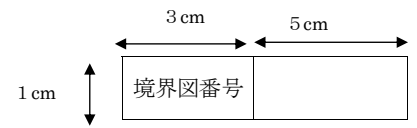
3 cm 以上

別紙 1-3

私所有の下記土地と隣接する市道等との境界について、本境界図のとおり合意します。

立会場所・土地の地番	土地所有者 住所・氏名・印	立会年月日	合意年月日
青梅市〇〇町六丁目 1 2 3 番 1	青梅市〇〇町〇丁目〇〇番 〇 〇 〇 〇 印	〇年 〇月〇〇日	〇年 〇月〇〇日
青梅市〇〇町六丁目 1 2 2 番 1	青梅市〇〇町〇丁目〇〇番 〇 〇 株式会社 代表取締役 〇〇〇 印	〇年 〇月〇〇日	〇年 〇月〇〇日
青梅市〇〇町六丁目 1 2 4 番 1	被相続人 〇〇 〇〇 相続人代表 青梅市〇〇〇町〇丁目〇〇番 〇〇〇 〇 〇 〇 〇 印	〇年 〇月〇〇日	〇年 〇月〇〇日
青梅市〇〇町六丁目 1 1 0 番 1	青梅市〇〇町〇丁目〇〇番 〇 〇 〇 〇 〇 印	〇年 〇月〇〇日	〇年 〇月〇〇日
青梅市〇〇町六丁目 1 1 0 番 3	青梅市〇〇町〇丁目〇〇番 〇 〇 〇 〇 〇 印	〇年 〇月〇〇日	〇年 〇月〇〇日

土地境界図		縮尺
所在地番	青梅市〇〇町六丁目 1 2 3 番 1 ほか	1 250



座標一覧表 (世界測地系)			
	X	Y	備考
P 1	-21062.487	-48067.270	市プレート(アルミ) <input type="checkbox"/>
P 2	-21058.647	-48070.198	市石標 <input type="checkbox"/>
P 3	-21076.653	-48078.054	市プレート <input type="checkbox"/>
P 4	-21083.137	-48083.020	市石標 <input type="checkbox"/>
P 5	-21080.372	-48086.745	市石標 <input type="checkbox"/>
P 6	-21082.398	-48088.350	刻み (市石標)
P 7	-21088.297	-48087.213	市石標 <input type="checkbox"/>
S 1	-21053.224	-48066.705	市石標
S 2	-21057.603	-48063.901	市石標
S 3	-21056.032	-48068.408	民石標
S 4	-21061.474	-48066.499	市石標
S 5	-21058.936	-48075.136	建物角
S 6	-21063.458	-48077.936	建物角
S 7	-21084.078	-48089.723	鉄 鋌 (市石標)
S 8	-21085.375	-48090.817	市石標
S 9	-21093.295	-48091.858	市石標
S 10	-21090.154	-48095.263	市石標
S 11	-21098.045	-48096.935	市石標
S 12	-21094.701	-48100.121	市石標
T 1	-21100.000	-48100.000	鉄 鋌
T 2	-21071.146	-48074.577	鉄 鋌
T 3	-21049.177	-48064.363	鉄 鋌

作成者	青梅市〇〇町〇丁目〇番〇〇 (土地家屋調査士)
	(測量士) 〇〇 〇〇 印
	登録第〇〇〇号
測量年月日	年 月 日

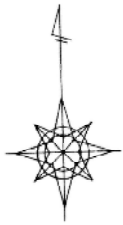
※測量年月日は立会日以降の日付のすること。

凡	記号	説明
○	P n	境界点
—	S n	引照点
○	T n	機械点
〇〇m〇〇	—	境界辺長

3 cm 以上

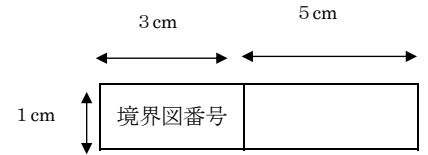
※ 形状・サイズについて
 境界点 1.5 mm 程度
 境界辺長 文字 2.5 ~ 3.0 mm 程度
 線の太さ 0.25 ~ 0.30 mm 程度

3 cm 以上



道 路 区 域 図		縮 尺
所 在 地 番	青梅市〇〇町六丁目123番1ほか	$\frac{1}{250}$

3 cm 以上

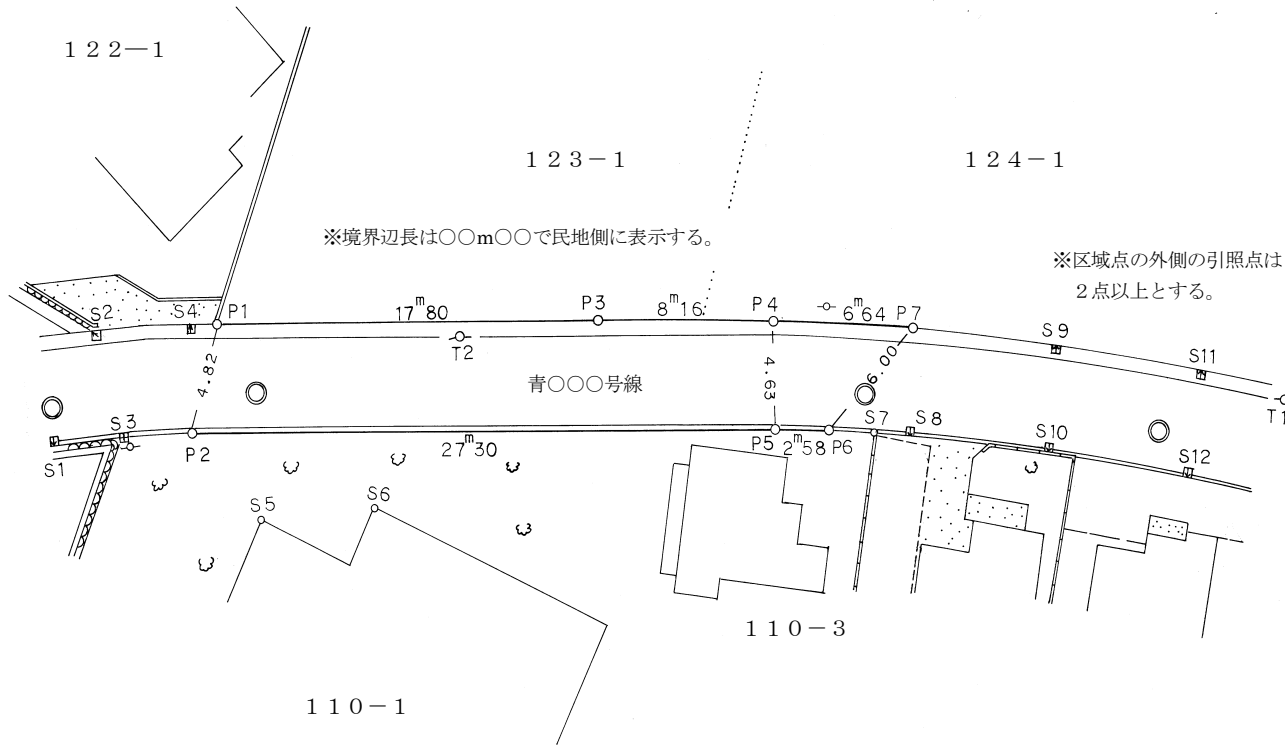


3 cm 以上

座標一覧表 (世界測地系)			
	X	Y	備 考
K 1	-21062.487	-48067.270	市プレート(アルミ) □
K 2	-21058.647	-48070.198	市石標 □
K 3	-21076.653	-48078.054	市プレート □
K 4	-21083.137	-48083.020	市石標 □
K 5	-21080.372	-48086.745	市石標 □
K 6	-21082.398	-48088.350	刻 み(市石標)
K 7	-21088.297	-48087.213	市石標 □
S 1	-21053.224	-48066.705	市石標
S 2	-21057.603	-48063.901	市石標
S 3	-21056.032	-48068.408	民石標
S 4	-21061.474	-48066.499	市石標
S 5	-21058.936	-48075.136	建物角
S 6	-21063.458	-48077.936	建物角
S 7	-21084.078	-48089.723	鉄 鋸(市石標)
S 8	-21085.375	-48090.817	市石標
S 9	-21093.295	-48091.858	市石標
S 10	-21090.154	-48095.263	市石標
S 11	-21098.045	-48096.935	市石標
S 12	-21094.701	-48100.121	市石標
T 1	-1100.000	-48100.000	鉄 鋸
T 2	21071.146	-48074.577	鉄 鋸
T 3	21049.177	-48064.363	鉄 鋸

※石標・プレートは原形を記入する。
矢印の場合は埋設向きに関係なく右上とする。

※ 形状・サイズについて
区域点○ 1.5 mm程度
区域辺長 文字 2.5~3.0 mm程度
線の太さ 0.25~0.30 mm程度



作 成 者	(土地家屋調査士)	〇〇 〇〇 印
	(測量士)	
	登録第〇〇〇号	
測量年月日	年 月 日	

※測量年月日は立会日以降の日付とすること。

凡	○ K n	区 域 点
	S n	引 照 点
	○ T n	機 械 点
例	〇〇m〇〇	区 域 辺 長
	○————○	

3 cm 以上